

● 地域への理解と愛着を育むキャリア教育

～地域の核となり得る人材の育成～

(1) 県内高校や地域に期待する役割 ～キャリア教育の機会充実～

- ・ かつて地域のリーダーを育成していた職業学科と地域との結びつきを取り戻す必要がある。町で起業する、経営者となる人を育成していくような高校でもないといけない。(委員発言)
- ・ 授業内容の見直し、学科の見直しもすごく大事なのではないか。(委員発言)
- ・ キャリア教育の理解が教育現場でまだ十分に図られてはいない。(委員発言)
- ・ 地域を愛して、それから自分が育ったところを愛する気持ち、子どもたちがその魅力を知るといえることがすごく大事(委員発言)
- ・ 地域や社会に貢献しようとする主体的に諸活動に取り組む生徒を育成し、その生き生きとした姿を発信して地域の信頼を得ることが求められている。(県内調査 尾鷲高校 今年度学校経営の改革方針)
- ・ 県内高校には元気で魅力的な地域の人との出会い創出の機会づくりを期待したい。(知事への提言)
- ・ (平成 28 年度当初予算要求事業には) 地域へ帰ろうというきっかけにもなる、地域をもっと知ろうという事業なり教育カリキュラムが抜けているのではないか。(委員発言)
- ・ 高校のあり方は町の地域づくりに直結し、そのことが大きく人口減少に影響している。(委員発言)
- ・ 県立高校は小中学校以上に、更に大きな地域の核となり得る。高校は地域貢献まで考えてほしい。(委員発言)
- ・ 高校生が地域を隅々まで知り、元気な魅力的な地域の人と出会ったか？(県内調査 資料「尾鷲高校のチャレンジ」)
- ・ 高校生ともなれば、地域の人たちと触れ合う中で切磋琢磨していける部分もあり、例え 1 学級でも、単独の高校として残していくことが大事ではないか。(委員発言)
- ・ この(まちいく)事業により、就職などの人生の岐路に立った時に、尾鷲や紀北町に帰って生活するという選択肢を増やしてほしい。地域づくりの中心に立てる人づくりを行えないかというのが、事業の一番深いところの目標となっている。この事業はすぐに結果が出るものではなく、10 年スパンで自己評価を行いつつ、事業を進めていく。(県内調査 尾鷲市関係課)

- ・ キャリア教育というのは地域が担うというところが大きくて、地域の祭り等はとても大きな意味がある。生涯の何か芯になるものをつくる教育というのが地域行事の中で大きく育まれる。(委員発言)
- ・ 一つの愛着心を育てるための事業として、ふるさとがどんなところか聞かれた時に紹介できる、自信を持って発信できるための取組として熊野かるたを地元事業としてやっている。こういう取組にも予算を出していくべきではないか。(委員発言)
- ・ デザインにより、今まであったんだけども気が付かなかった価値が、再価値化される。デザインの力で地域への理解と愛着を育み、その良さを発信するというところを取り入れてはどうか。(委員発言)
- ・ 移住者とか地元民は関係ないんですよ。地域がどんどん疲弊していく中で、それでもがんばろうっていう前向きな人材、前向きに捉えてアクション出来る人をどれだけ増やせるかというのが、町としてもそうですし、これからの若い世代でもすごい大事なことなんじゃないかな。(県外調査 TSUGI)

【他県参考事例】

埼玉県川口市：川口ものづくり人材育成プロジェクト

埼玉県下で最も中小製造業者が多く、多種多業種が集積する川口市において、「地学地就」を目的に、人材育成、地域産業の振興、地元就職の促進を図るため、産官学が連携して実施する工業高校生を対象に実践的な教育プログラムを実施している。

「地学」とは、地域全体を学び場にし、そこで培われた高度な技術、技能を持つ人材を学校教育に生かすことであり、「地就」とは、地域のものづくり人材を育て、地域に就職すること。

宮城県石巻地域：石巻“まるっと”高高連携応援団

農・商・工・水産の各職業高校と行政、地元企業、NPOが連携して取り組んでいる、地域課題解決型のキャリア教育。石巻の地域資源を活用した6次産業化を実体験し、多様な人と関わることで、コミュニケーション力やプレゼンテーション力等の社会で生きていくために必要な力や地域への誇りと愛着形成を育む取り組みとなっている。

(2) 県外進学者とキャリア教育 ～ふるさとへの意識醸成～

- ・ 親は、高校卒業後に県外への進路選択を薦めている。(県内調査 尾鷲高校生との意見交換)
- ・ 高校から自動的に外へ流れていく形になっている。(委員発言)
- ・ 地域に魅力的な職場、給料もそこそこ高い、安定した職場はいっぱいある。いっぱいあるけど、尾鷲高校の卒業生がそれを占めていないというのが現実なんだろうと私は思っている。(県内調査 尾鷲高校)
- ・ 全ての進学を希望する子どもたちを三重県の大学で受け入れることは不可能である。(委員発言)
- ・ 県外に出ていっても、最終的にやっぱり自分が育ったところって素晴らしかったんだと思えるような教育は必要。(委員発言)
- ・ 県外進学者に県内企業への就職を働きかけるとともに、地域の素晴らしさ、地域のために何ができるかを伝え、しっかりとした価値観を醸成しておく必要がある。(知事への提言)
- ・ 人の役に立つ喜びを教えてもらいたい。人の役に立つ、地域の役に立つ喜びを小さいうちにやっておくことが、将来帰ってくる重要なポイントかなと思う。(委員発言)
- ・ 地元の中小企業で人をほしいと、就職の場を提供しますと言っている人たちの声が、遠く離れた東京等で卒業しようとしている子たちに届いているのか。(委員発言)

【他県参考事例】

島根県立島前高校：島前高校魅力化プロジェクト

「田舎には何もない」「都会が良い」という偏った価値観から脱却し、地域への誇りと愛着を育むこと、また「島には仕事がないから帰れない」という従来の意識に留まらず、「地域を元気にする新しい仕事をつくりたい」というぐらいの起業家精神を育てていくことを目指す学校プロジェクト。

島の文化を継承し、地域の未来を創り出していける人財を育てることは、島前地域唯一の高校としての任務と謳っている。

- ・ 生徒には、大学を卒業してすぐ帰ってこいとは言っていない。修羅場をくぐって、いろいろな経験を積んで、自分で仕事を回せるぐらいの能力をつけて、それから帰ってこいと言っている。地域を新しく、もしくは地域から産業を創っていくということを考えると、それぐらい長い目でみてやらないと。近くにいろとか、早く帰ってこいみたいな、それじゃ駄目で、本当にでかい器には育たないんじゃないかなと思っている。(高校魅力化コーディネーター)